



### OCTAVE V80SE

## 独自の電源トランス技術で実現した真空管プリメインアンプの傑作

問い合わせ/フューレンコーディネート(オクターブ) ☎0120-004884 <http://www.fuhlen.jp/octave/>



真空管カバーを装着した状態(下)もスタイリッシュだ。価格はフォノモデルが1,630,000円(税別)円、ラインモデルが1,540,000円(税別)



**照**明を落としたオーディオルームに真空管の明かりが灯り、スピーカーからお気に入りのレコードの音が流れてくる。何度も聴き込んだあの演奏が、いつもより温かく響く。オーディオファンなら誰もが憧れる管球式アンプの何よりの魅力は、優しくマイルドな音色だろう。

1980年に最初の真空管アンプを発表して以来、つねにハイクオリティで魅力的な製品を世に送り続けているドット・オクターブ社。その前身は1968年に現社長の父親が設立したコイルトランスの製造会社だった。

オクターブ社の真空管アンプが従来のメーカーと大きく異なっているのは、こうした出自も関わっている。つまり、真空管を使った回路には高出力大容量の電源トランスが必要となるが、通常のトランスではなかなか安定がとれない。オクターブは独自の五極管接続回路という技術で、このジレンマを解決した。もともとが優れたトランス製造の会社であったから、可能な限りの技術である。古典的な真空管技術と革新的なエレクトロニクス技術を融合して、高性能アンプを実現したのである。

そんなオクターブ社の代表的なモデルが、真空管プリメインアンプの最新にして最上位機種である「V80SE」だ。同社の定番アンプとして長くオーディオファンに愛されてきた名器V80が、アップグレードされた出力トランスと、洗練されたパワートランスを数々の新技術をもとめて一昨年、登場した。

ハイエンドオーディオのファンにとってのアンプとは、パワーアンプとプリアンプが分かれたセパレートアンプが王道。それが一体となったプリメインアンプはどうしても、低く見られがちだが、V80SEなどは、そんな先入観とは無縁だ。管球式アンプならではの伸びやかなふっくらとした中音域と、透明感のある高音域。全体的に力強い色つやのある音色は、同グレードのセパレートアンプと比べても遜色のない音を提供してくれる。

もちろん、アナログレコードプレーヤーとの相性も申し分ない。フォノモデルはMM(47キロオーム)またはMC(S50オーム)カートリッジ対応のフォノステージ基板を内蔵しており、最高の信号コンディションを実現する。

棚に眠っているあのころのレコードを、もう一度聴いてみようか。そう思われるに十分な極上のクオリティなのである。



出力管には標準でKT150を4基搭載。KT120、6550、KT88、EL34、KT66等に差し替えられる

### LINN LP12

## 誕生から45年にして最前線。伝説のプレーヤーが鳴らす真実の音

問い合わせ/株式会社リンジャパン ☎0120-126173 <http://linn.jp/>



アナログ盤の音を謡歌(おうか)できるエントリー版システム「MAJIK LP12」。430,000円(税別)



シンプルを極めたデザインはどんなインテリアにも合う。リンのスピーカー「AKURARIK」と

1972年の誕生以来40数年、終始一貫して世界最高水準のパフォーマンスをもつレコードプレーヤーをつくり続けているのが、イギリス生まれのリンである。

そして、英国王室御用達として指定されている唯一のオーディオメーカーであるリンのベースとなっているのがエントリー版システム「MAJIK LP12」だ。

「時を経(つ)じれその価値を高めていく」とい

う誕生時からのコンセプトを今も受け継ぎ、40年間にわたり一度も大きなモデルチェンジをしないという。そして、LP12本体にシンプルな電源、高性能のMMカートリッジ、LP12用にセレクトされた他社製トーンアームを採用するな、その大胆で適切な発想は、まさにリンをそのは。「リン」泉という社名を彷彿させる澄み切った音がLP12の最大の魅力といえるだろう。

また、14もの工程を経て研磨されるLP12のセンター(センターレコード)を回転軸の中心に置くためのレコードのセンターホールとターニングテーブルを合わせるためのシャフトとそれを受け止めるスラストパッド(回転体の軸方向に働く力を受け止める軸受)は、シングルポイント・ベ



外部電源に最上位機種を採用したシステム「KLIMAX LP12」。2,860,000円(税別)



中位システム「AKURATE LP12」は電源部とトーンアームをグレードアップ。1,050,000円(税別)～

アリング」と呼ばれる特殊な構造で、リンのロゴマークのモチーフとなっていて、外部の震動を完璧に吸収してしまふ、スプリングによるサベッジョン構造とともに、リン製品のクオリティーの高さを裏づける画期的技術である。

LP12が自宅でレコードを楽しむ人にもう一つ、アナログレコード相手にする店からも支持されているのは当然かもしれない。

LP12は、本体に対して底板、脚部、電源、トーンアームをセレクトして組み合わせるシステムだ。「MAJIK」はいわば入門システムでここから各パーツをグレードアップしていくことができるのもLP12ならではの楽しみだ。